

富岡鉄斎・大田垣蓮月作品目録

本目録は、木村定三コレクションの内、富岡鉄斎と関連する大田垣蓮月の作品をまとめたものである。これまでその一部のみの公開となっていたが、柏木知子氏(鉄斎美術館)の作品調査によりここに収録が可能となったものである。作品目録編集は編者によった。

富岡鉄斎

天保7年(1837)：京都－大正13年(1924)：京都

TOMIOKA Tessai

1837: Kyoto, JPN-1924: Kyoto, JPN



虎僊育虎子図

大正3年(1914)

掛幅装 紙本着色 31.8 × 42.6 cm

「虎僊育虎子 大正三帙歳四月為虎舖 鉄斎外史」

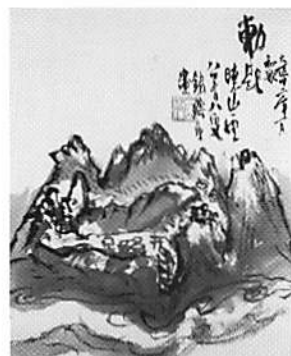
「鉄斎外史」

Legendary Wizards Nurturing Tiger Cubs

1914

Hanging scroll; Color on paper.

M1772



暁山雲図

大正12年(1923)

掛幅装 紙本着色 42.7 × 35.0 cm

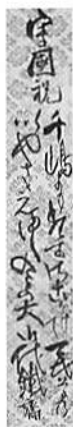
「大正十二年一月 和歌勅題 暁山雲 八十有八叟 鉄斎百練畫」 「富岡百鍊」

Dawn Clouds over Mt. Fuji

1923

Hanging scroll; Color on paper

M1778



寄国祝歌 短冊

大正5年(1916)

掛幅装 彩箋墨書 35.8 × 6.0 cm

「寄国祝 千嶋よりたかさごかけて民草のいやさかえゆく今
の大御代」「鉄斎」

Festive Song for the Nation

1916

Hanging scroll; Ink on decorated paper

M1774



百事如意図

大正7年(1918)

掛幅装 紙本墨画淡彩 13.0 × 33.3 cm

「百事如意」「八十三老人鉄斎外史」

「子孫千万」「君子居之何陋之有 鉄安」

Various Matters being one's own Will

1918

Hanging scroll; Ink and color on paper

M2129



大国大神神影

大正13年(1924)

掛幅装 紺紙金泥 125.4 × 44.7 cm

「経営国土扶殖人倫 大正甲子歳一月一日」

「帝室技芸員 正五位富岡百鍊謹筆 時年八十有九歳」

「帝室藝員」「富岡百鍊」

Image of *Daikokuten*

Hanging scroll; Gold on Blue paper

M1776



都三景図

大正13年(1924)

掛幅装 紙本墨画 d : 13.1 cm

「鴨川曉景 通天紅葉 嵐山春暁」「鉄斎」「鍊斎居士」

Three Sceneries of Kyoto

1924

Hanging scrolls; Ink on paper

M1779



鶴図炉屏

大正9年(1920)

二曲一隻炉屏風 木地墨画 中島菊斎造

57.8 × 75.0 × 72.5 cm

「大正庚申七月 鉄叟時年八十五筆」「鍊斎外史」

Folding Screen for Furnace with Cormorant design

1920

Wood: made by NAKAJIMA Kikusai

M2204



竹詩画器局 銘暝雲

竹 32.1 × 29.1 × 38.1 cm

「暝雲」「但有清風 鐵道人」「画禪盒常用」

Medium-grade (*sencha*) Tea Utensil Named *Meiun*

Bamboo

M2621



長方手付梅花図磁鉢

大正10年(1921)

染付 5.9 × 27.0 × 18.6 cm

「菅領春風第一枝」「大正十年小春月 為黒川氏写八十有六
叟鉄斎自題於魁星閣(花押)」

Porcelain blue and white with Plum design

1921

M1356



遠山雪景図茶碗

大正6年(1917)

染付 d : 9.8 × h : 6.7 cm

「遠山雪景 鉄斎写」「春子造」

Tea Bowl with Snowy Mountain design

1917

M2246



富士山図茶碗

染付 d : 11.0 × h : 6.8 cm

「鉄叟」「春子造」

Tea Bowl with Mt. Fuji design

M1650



菊図急須

染付 5.0 × 9.3 × 7.8 cm

「鉄叟畫」「春姥造」

Teakettle Chrysanthemum design

M2248



福祿寿書金欄手盃

大正10年(1921)

赤絵金欄手

14代得全室妙全造 d : 5.9 × 2.2 cm

「福祿寿 八十六翁 鉄斎」

Cup gold-painted porcelain with *Fukurokuju* character

1921

M1650

大田垣蓮月

寛政三年(1791)：京都—明治八年(1875)：京都

OTAGAKI Rengetsu

1791 : Kyoto, JPN - 1875 : Kyoto, JPN

水鶏の歌

慶応三年(1867)

紙本墨書 28.1 × 64.6 cm

Waterfowl

1867

Hanging scroll; Ink on paper

M2081

「いまハむかし水無月 はかり月あかきよひ のほとにかとをたゝく 人ありわつ
らはしければ さらぬようにてあけさり けりいかゝおもひけん やかてむかひと
なりと こゝかしこたゝきめくり てかへりとそつとめて よへのくひなハきゝ及
ひし やといひおこせけれハ かとことにたゝく くひなハたのまれず うはのそ
らなるゆふ 月のかけ 蓮月 七十七才」『海人の刈藻』所収103

「今は昔 水無月許り 月明き宵の程に 門を叩く人あり 煩わしければ然らぬ様
にて開けざりけり 如何思ひけん やがて向い隣りと此所彼処叩き廻りて帰りとぞ
翌朝 昨夜の水鶏は聞及びしやと云い致せければ
門毎に 叩く水鶏は好まれず 上の空なる 夕月の影」

和歌短冊「あふことは」

明治元年(1868)

紙本墨書 36.3 × 4.8 cm

Poem on Tanzaku paper 1868

Hanging scroll; Ink on paper

M2080

「あふことは かたわれ月も かけふけて ひとりや鹿の 鳴あかすらん 七十八
蓮月」『海人の刈藻』所収拾遺554

蓮月尼短冊帖

明治二年(1869)－明治七年(1874)

紙本墨書 各36.3×6.0 cm

M2082

Collection of Poems by Rengetsu

1869-1874

Album; Ink on paper

大田垣蓮月の短冊集成である。『海人の刈藻』及び拾遺に所載の句が多数を占めるが、帖に収められている順序は句集の通りではない。ここでは収集時の現状のまま掲載してある。各句には詠年が記されているものが多く、規準作となるものとも思われる。また、句集に収められている詞書が既刊のものと異なっているため、その場合、本句の後に刊行句集の詞書を〈〉で注記してある。本来は五十二短冊であるが、別に一短冊が収められており、全体で五十三となっている。

「初春比つづみうちて 万世の 春のはじめと うたふ也 こはしきしまの や
まと人かも 蓮月」『海人の刈藻』所収1〈初春〉

「雪中若菜 ひまもなく ふりくをみれば 雪ひとり つみてしめての、 若菜
なりけり 八十三蓮月」

「川べの春月 河ぞひの やなぎのいとに かゝりけり のこるこほりの かた
われの月 八十歳蓮月」『海人の刈藻』所収4〈早春月〉

「江上春月 霞ゆは うかべるかげも うすぎぬに つゝむ玉江の なみのうへ
の月 蓮月七十九歳」

「九月九日ひとりごとに つむごとに 若ゆときくの 花のかず かさねていと
ど みの老ぬらむ 八十一蓮月」『海人の刈藻』所収152

「閑居鶯 かくれがに 春つげがてら 鶯の そらごとすなり 人もこなくに
八十三蓮月」『海人の刈藻』所収15

「松雪 よあらしも うづもれはて、 しら鳥の とば山まつに つもる雪かな
七十九歳蓮月」『海人の刈藻』所収208

「江上秋雨 タづくひ 入えのまつに かげろひて なごりさびしき 秋のむら
雨 蓮月」『海人の刈藻』所収164〈水郷秋雨〉

「春雨 つれづれと さびしきもの、 うれしきは 花まつやどの はる雨のこ
ろ 八十一蓮月」『海人の刈藻』所収37

「かせ山の春 日はくれぬ やどかせ山の 時鳥 あすはみやこへ つれていな
まし 蓮月八十歳」『海人の刈藻』所収89〈山時鳥〉

「さなへ うちわたす くろの小河にながる、や とりあまりたる さなへなる
らん 八十歳蓮月」『海人の刈藻』拾遺所収

「首夏水 ちる花に かけし心の しがらみも なつになるせの おとのすずし
さ 七十九歳蓮月」『海人の刈藻』所収79

「みたらし川に夏はらへして こひせじの それにはあらで すゝしきは かみ
のうけひく かものかは風 蓮月」『海人の刈藻』所収114

「みそぎ 人の世も 上中下と かはのせに こゝろの みそぎすらしも
八十一蓮月」『海人の刈藻』所収113〈水無月晦日に〉

「夏夕 軒ちかき 柳になびく かはほりの かげなつかしき うす月よかな
蓮月」『海人の刈藻』所収104〈月にかはほりとぶかた〉

「初秋水 あさ風に 河ぞひ柳 ちりそめて 水のしらべぞ あきになりゆく
八十一蓮月」『海人の刈藻』所収116

「初秋霧 たちそめて 外山になびく うす霧や まだ入たゝぬ 秋しのゝさと
蓮月」『海人の刈藻』所収125

「橋辺月 しるしらぬ 昔をかけて あはれ也 世をうちはしの 夕月のかげ
蓮月」『海人の刈藻』所収259〈宇治橋のほとりにて〉

「海上月 もののふの やしまのうらの 夕波に ながれもあへぬ 弓はりの月
蓮月」『海人の刈藻』所収173

「水に月 かは舟の さすてひくてを みわたして つきにかちゆく ひらかた
のさと とし八十四蓮月」

「月あかきよ虫鳴ければ 山さとの かべのやれまのきりぎりす つきもこゝよ
り させよとやぞ鳴く 蓮月」『海人の刈藻』所収131〈月前蟲〉

「秋雨 ふゆづく日 いりえの松に かげろひて なごりさびしき 秋のむら雨
八十三蓮月」『海人の刈藻』拾遺所収

「秋のよのすさび 露ごとに やどれる月の かずを かぞふるほどに よ

はあけにけり 蓮月」『海人の刈藻』所収

「大仏にものしける秋 ふるき世を 思ひねぎめの みゝづかに 秋の声きく
をぎの上風 蓮月」『海人の刈藻』所収

「紅葉のちりたるをはきあつめて めぐりをおろそかにかこみつるところ ちり
つると いひなくらしそ もみぢはのにしきをたゝむ からひつぞこれ 蓮月八十
歳」

「花ぞのゝ むかしのあとを たづぬれば あきかぜ寒し 滋賀のふるさと
八十三蓮月」

「九月里 そめし 外山の紅葉 かづちりて けふにとづむる 秋しのゝ
さと 七十九歳蓮月」『海人の刈藻』拾遺所収

「初冬 山ざとの 笥の水に ながれきて きのふの秋を みする紅葉 蓮月」
『海人の刈藻』所収176

「初冬霜 まねきつる 尾花がそでも うらがれて はらひかねたる けさの初
しも 八十一蓮月」『海人の刈藻』拾遺所収

「時雨 うらがるゝ あさぢの末に ひろばかり ひかげのこりて ふるしぐれ
かな 八十歳蓮月」『海人の刈藻』所収180

「水上あられ 舟ばたに 風のつぶてと うちつけて みづにはかるき 玉あら
れかな 蓮月」『海人の刈藻』所収203〈水上散〉

「あられふる日 たび人の かづくひとへの ひの木がさ うちぬくばかり ふ

るあられかな 蓮月七十九歳」『海人の刈藻』所収205〈旅中霰〉

「川冬月 風寒き しわすの月の かつらがは かげさへむせぶ せゝのいはな
み 八十三蓮月」『海人の刈藻』拾遺所収

「霜 ちどり鳴 かも川つゝみ 月更て そでにおぼゆる よはの初しも 蓮月」
『海人の刈藻』拾遺所収

「松雪 よあらしも うづもれはてゝ しらとりの とば山まつに つもる雪か
な 七十九歳蓮月」『海人の刈藻』所収208〈名所雪〉

「湖辺氷 あまのこが かげみしみぎは 氷ゐて 松風寒し 志がのからさき
蓮月」『海人の刈藻』拾遺所収

「雪のふりける日 かれのこる はたのわた木に つむ雪の きえずばとりて
いとにひかまし 七十九歳蓮月」『海人の刈藻』所収209

「山家雪 よもすから なきしきつねの 後ならで くまこそなけれ 雪のやま
里 蓮月七十九歳」『海人の刈藻』拾遺所収

「としのくれに うつばりの すゝも心の ちりひぢも はらひて清き としの
くれかな 八十一蓮月」『海人の刈藻』所収221〈煤を拂ひて〉

「名所山 いちじるき かみのみいつの をとこ山 しらべも高き みねの松風
八十一蓮月」『海人の刈藻』所収238〈山〉

「名所野 むさしのゝ はては風だに ゆきかねて くさの葉末に かゝるしら
くも 八十歳蓮月」『海人の刈藻』拾遺所収

「名所里　うみのこに　いひのこしけん　ま心の　花にゆかしき　さくらゐの里
蓮月八十歳」『海人の刈藻』拾遺所収

「うち川辺に昔をおもふ　こゝをせと　きそひわたりし　ものゝふの　名になが
れたる　うちのかは水　蓮月八十歳」『海人の刈藻』所収269〈佐々木・梶原うまに
て宇治川を渡る所〉

「おもふことを　うつりゆく　はじめもはても　しらくもの　あやしきものは
こゝろなりけり　八十三蓮月」『海人の刈藻』所収251〈心〉

「いちが人　しかま人　おのがてぞめの　あなかちに　声ふりたてゝ　うらむと
すらむ　蓮月」『海人の刈藻』所収253〈市〉

「古寺水　古寺の　あかいはこけに　うづもれて　みずさへすまづ　なりにける
かな　蓮月」

「菊　たなぞこを　うけてまつ間も　ちよやへん　のめば若ゆと　きくの下つゆ
八十二歳蓮月」『海人の刈藻』所収306〈寄菊祝〉

「初秋ころ　たちそめて　外山になびく　うす霧や　まだいりたゝぬ　秋しのゝ
さと　七十九歳蓮月」『海人の刈藻』所収125

「子曰とて　のべに心の　ひかるゝは　ひくべき松の　あれば也けり　蓮月」『海
人の刈藻』拾遺所収

「こひせじの　それにはあらで　すずしきは　神のうけひく　かものかは風　蓮月」
『海人の刈藻』所収114〈名所霜〉

「ちどり鳴　かも川つつみ　月更て　そでにおぼゆる　よはの初霜　蓮月」『海人の刈藻』所収195

「ちりそむる　きりの一はの露の上に　ねざめよふかき　月をみるかな　蓮月」『海人の刈藻』所収117〈初秋月〉

別「初冬霜　おきていにし　秋の形見の　つゆもけさ　霜になりゆく　あさぢふの宿　蓮月七十九歳」『海人の刈藻』所収178〈初冬〉

和歌短冊

1872年他

紙本墨書　各36.3×6.0 cm

Waka Poems　1872 et al.

Tanzaku; Ink on paper

M2083

「秋のよも　わがよもいたく　かたぶきて　いるかたちかき　月をしぞ思ふ　蓮月」

「花の比野、宮にもうで、　の、みやの　春の手向の　しらゆふは　さかきにまじる　さくら也けり　蓮月」『海人の刈藻』所収58〈社頭花〉

「かめ　万世も　たえぬながれと　しめつらん　そのかめの尾の山のした水　蓮月」『海人の刈藻』所収308〈寄龜祝〉

「さ月のころ大仏にて　のちの世を　かけよ〱と聞ゆ也　あみだかみねになく時鳥　蓮月」

「夏山　くもとみし　さくらはあとも　夏山の　青葉にかおる　かぜのすゝしさ
蓮月」

「みそぎ　人の世も　上中下と　かはのせに　こゝろ／＼の　みそぎすらしも
八十一連月」『海人の刈藻』所収113